

話題① 今後の福利厚生事業について

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

1

[目次]

- ① 話題の背景・経緯
- ② 現状の福利厚生事業の問題点と課題
- ③ 今後の福利厚生事業の向上に向けて
[提案①] 福利厚生委員会の活性化
[提案②] 大学生協について
- ④ さいごに

2

① 話題の背景・経緯

- ・アンケートにおいて、学生による今年度の福利厚生事業の相次ぐ撤退に対する意見が多かった。
- ・学生と教職員が福利厚生事業に対して十分に意見交換ができていない、学生の声が届けられていない現状。
- ・学生から弊学に生協がないことへの疑問、生協設立や生協が提供するようなサービスを求める声の一部挙がっていた。



学生・教職員共に福利厚生事業のシステムを見直す必要があるのではないかと

3

① 話題の背景・経緯

○福利厚生事業に関する学生のアンケート回答一例

- ・福利厚生事業が次々撤退していることについて説明が欲しい。
- ・福利厚生事業が開店している時間を長くしてほしい。
- ・福利厚生事業の今後の展望について知りたい。
- ・某大手フランチャイズなどを学内に展開してほしい。

4

②現状の福利厚生事業システムの課題

- ・学生と教職員が十分に意見交換できていない。
- ・大学と直接契約し業者委託の形をとっているため、業者の経営的判断に左右される（今回のような撤退が起こる）。
- ・上記の理由で、新しいサービスや学生に利益のある施策の展開が難しい（学食割引キャンペーンや旅行券、車校、住居など）
- ・撤退した事業に代わる事業募集に応募する事業者が少ないことが予想される。

5

③ 今後の福利厚生事業の向上に向けて

全代会からの提案

[提案①] 福利厚生委員会の活性化に向けて

[提案②] 大学生協設立について

6

[提案①] 福利厚生委員会の活性化

課題：学生と教職員が十分に意見交換ができているとは言えない



短期的に改善可能な課題

7

[提案①] 福利厚生委員会の活性化

課題の原因

- ・学生委員の任期が2年ということにより、現全代会構成員である1,2年生の委員がいない。
- ◇現委員は全代会との繋がりはなく、集約された学生の声を届けることができていない。さらに学生委員の形骸化にも繋がっている。常に全代会構成員が福利厚生について、委員として意見を届けることが可能な体制に変更する必要があるのではないか。

8

[提案①] 福利厚生委員会の活性化

課題の原因

- ・学生の意見を届けられていないこともあって、議論する機会が少ない
- ・福利厚生委員会の審議事項や議事録、決定事項などの情報が、学生に届けられていないのではないか

9

[提案①] 福利厚生委員会の活性化

解決に向けて

- 学生委員の任期を1年とし、全代会と福利厚生委員会とのつながり作ることを要請。

10

[提案①] 福利厚生委員会の活性化

解決に向けて

- ・全代会に届けられた生活に関する意見を直接的に届けることができる。
- ・福利厚生事業について、全代会内でも学生の立場から議論することが可能（少なくとも最近は全代会が福利厚生に関わることはできていなかった。
- ・全代会の管轄のもと学生委員の形骸化を防ぐことができる。

11

[提案②] 生協の設立について

○ 利点

- ・経営を生協組合員が行うため、組合員のニーズに合ったサービスが展開可能
- ・福利厚生事業の拡大
- ・大学生協連による運営・経営ノウハウの獲得

12

[提案②] 生協の設立について

○ 懸念点

- ・ 黒字経営を前提として運営・経営をしなければならない
- ・ 設立に際して、十分な大学構成員の承認・生協加入が必要
- ・ 現行の福利厚生事業者との契約を打ち切って、新たに一から事業を立ち上げる必要がある（食堂などの業者は残すことは可能。書店は困難）
- ・ 生協理事や学生委員会など、運営に関わる人員の年毎の確保

13

[提案②] 生協の設立について

○ 学生の意見

(3-1)あなたは生協の設立を希望しますか。
419件の回答

意見	割合
希望する	60.6%
希望しない	29.1%
わからない	-
どちらとも言えない	-
どちらでもよい	-
どちらでも悪い	-
どちらでも構わない	-

14

[提案②] 生協の設立について

○ 学生の意見

(3-3)生協が設立された際、加入したいと思いますか。(4段階評価)
419件の回答

評価	人数	割合
1	42	10%
2	55	13.1%
3	142	33.9%
4	180	43%

15

[提案②] 生協の設立について

○ 学生の意見

[肯定的な意見]

- ・ 学内で提供される福利厚生の安定化・低価格化が見込まれそうである
- ・ 幅の広いサービスの提供が欲しい
- ・ 学生の意見を通しやすそう

[否定的な意見]

- ・ 民間企業を導入した地域に開かれた大学が筑波大学のアイデンティティである
- ・ 今から導入しても安定した生協運営ができるとは思えない
- ・ 食堂などの現状のサービスで存続してもらいたいものがある
- ・ 今回の撤退はコロナ禍特有の問題である
- ・ 現状で満足している。

16

[提案②] 生協の設立について

- ・生協におけるサービスの拡充や組合員自身が話し合っ、利用者のニーズに合わせたサービスを安定的に展開できるのは魅力的である。
- ・一方で、筑波大学において生協の安定した設立・運営の難しさがある。また、民間企業が大学に参入していることが、筑波大学の福利厚生独自の性を象徴しているものである。

17

④ 最後に

- ・福利厚生委員会の学生委員任期を一年にするなどの対応から始め、福利厚生事業を学生・教職員で盛り立てていきたい。
- ・教職員の方々からも、今後の福利厚生事業についての展望・意見をお聞きしたい。

18